経営比較分析表（平成30年度決算）

岡山県　美作市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	88.44	72.97	4,104	

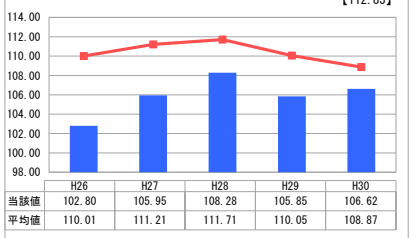
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
27,816	429.29	64.80
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
20,143	260.16	77.43

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【112.83】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	102.80	105.95	108.28	105.85	106.62
平均値	110.01	111.21	111.71	110.05	108.87

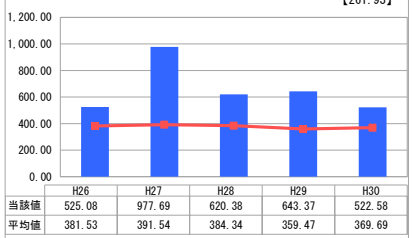
②累積欠損金比率(%)

【1.05】

	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	2.80	1.93	1.72	2.64	3.16

③流動比率(%)

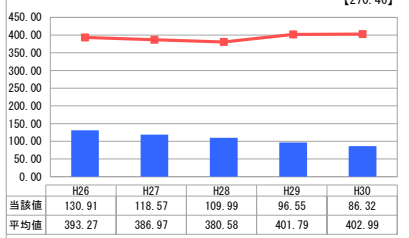
【261.93】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	525.08	977.69	620.38	643.37	522.58
平均値	381.53	391.54	384.34	359.47	369.69

④企業債残高対給水収益比率(%)

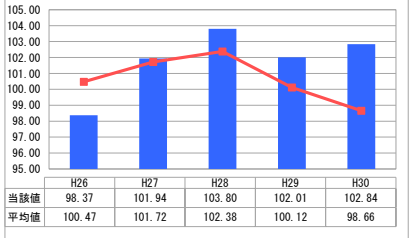
【270.46】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	130.91	118.57	109.99	96.55	86.32
平均値	393.27	386.97	380.58	401.79	402.99

⑤料金回収率(%)

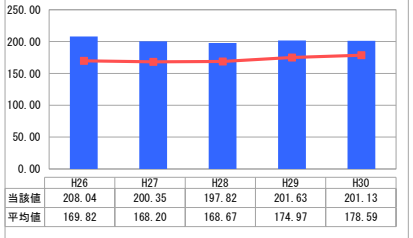
【103.91】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	98.37	101.94	103.80	102.01	102.84
平均値	100.47	101.72	102.38	100.12	98.66

⑥給水原価(円)

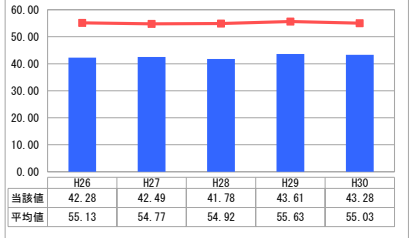
【167.11】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	208.04	200.35	197.82	201.63	201.13
平均値	169.82	168.20	168.67	174.97	178.59

⑦施設利用率(%)

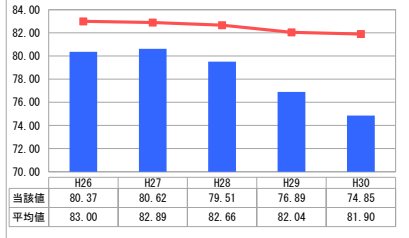
【60.27】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	42.28	42.49	41.78	43.61	43.28
平均値	55.13	54.77	54.92	55.63	55.03

⑧有収率(%)

【89.92】

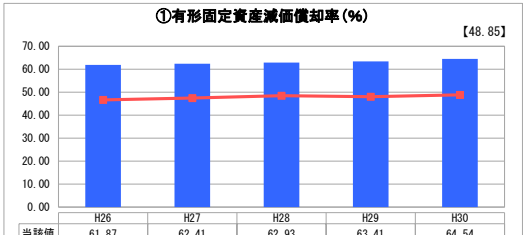


	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	80.37	80.62	79.51	76.89	74.85
平均値	83.00	82.89	82.66	82.04	81.90

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

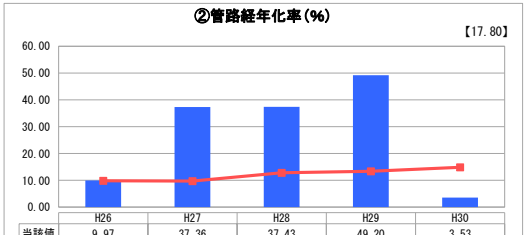
【48.85】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	61.87	62.41	62.93	63.41	64.54
平均値	46.66	47.46	48.49	48.05	48.87

②管路経年化率(%)

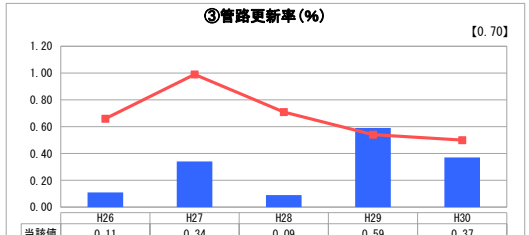
【17.80】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	9.97	37.36	37.43	49.20	3.53
平均値	9.85	9.71	12.79	13.39	14.85

③管路更新率(%)

【0.70】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.11	0.34	0.09	0.59	0.37
平均値	0.66	0.99	0.71	0.54	0.50

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営状況は、累積欠損金が発生しておらず収支は黒字を維持しているが、経常収支比率が全国平均を下回ってる。

主な原因は山間部という地形的なものによる投資効果の低下、施設利用率から見受けられるように、過疎地域という地域性による事業効率の低下があるとともに、料金設定が給水原価を下回っていることが要因と考えられる。

このことから、今後も経費の削減による給水原価の抑制を図るとともに、適切な料金設定が必要と考えている。

⑧有収率の大幅な減少は、寒波の影響による破裂や宅内漏水に係る漏水減免によるものである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率から見受けられるように、施設の老朽化が全国平均を上回っており、計画的な更新が必要となっているが、施設の更新を実施するための財源の確保、並びに水道水の供給を維持しつつ更新する必要があるなど、非常に厳しい状況にある。

このような状況であるが、水道事業を継続していくためには施設の更新は欠かせないため、劣化が激しい施設から順次更新し、事業の継続を図りたいと考えている。

②管路経年化率が低下したのは、積算ベースを固定資産台帳から、取得年度情報を追加した管路台帳に変更し、下水道事業や受託工事に伴う布設替が反映したためである。

有収率が類似団体と比べて著しく低いため、今後も計画的に管路の更新を実施していく必要がある。

全体総括

今後は、料金収入の減少、施設の老朽化の進行、及び稼働率の低下等が予想される。

このことから、適切な料金の設定及び施設更新時において統廃合等を実施し、経費削減並びに事業の効率化を図る必要がある。

経営比較分析表（平成30年度決算）

岡山県　美作市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	該当数値なし	26.55	3,078	

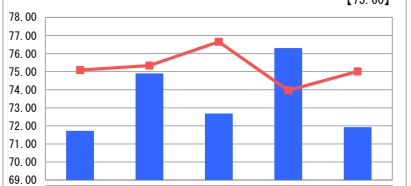
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
27,816	429.29	64.80
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
7,330	38.98	188.05

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

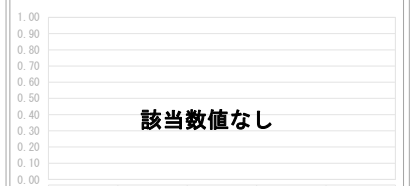
①収益的収支比率(%)

【75.60】



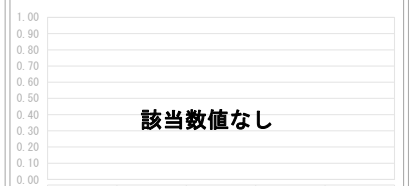
	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	71.72	74.90	72.68	76.30	71.93
平均値	75.09	75.34	76.65	73.96	75.01

②累積欠損金比率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

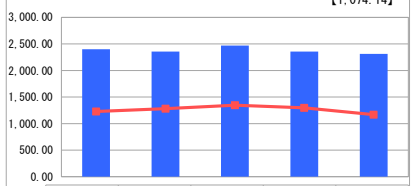
③流動比率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

④企業債残高対給水収益比率(%)

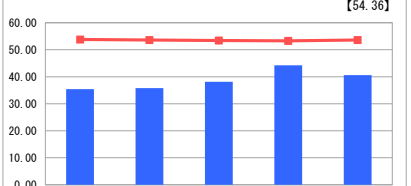
【1,074.14】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	2,401.90	2,358.03	2,468.61	2,357.33	2,313.95
平均値	1,228.58	1,280.18	1,346.23	1,295.06	1,168.70

⑤料金回収率(%)

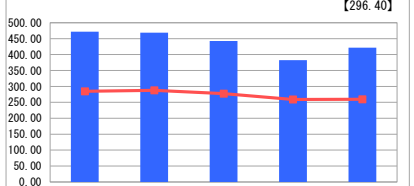
【54.36】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	35.44	35.76	38.13	44.23	40.62
平均値	53.81	53.62	53.41	53.29	53.59

⑥給水原価(円)

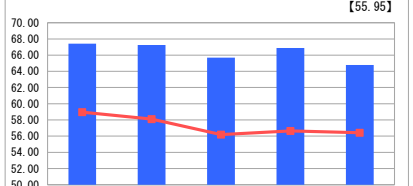
【296.40】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	472.10	468.96	442.85	382.70	421.44
平均値	284.65	287.70	277.40	259.02	259.79

⑦施設利用率(%)

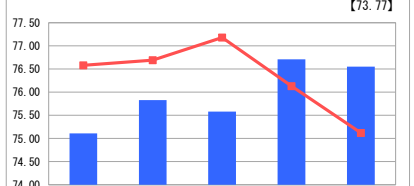
【55.95】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	67.42	67.26	65.68	66.89	64.79
平均値	58.96	58.10	56.19	56.65	56.41

⑧有収率(%)

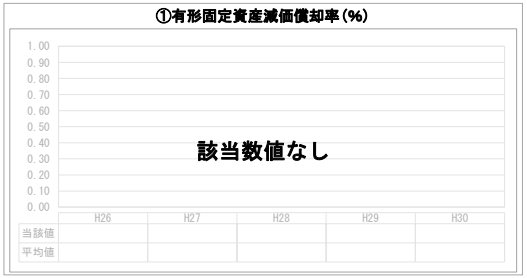
【73.77】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	75.11	75.83	75.58	76.71	76.55
平均値	76.58	76.69	77.18	76.13	75.12

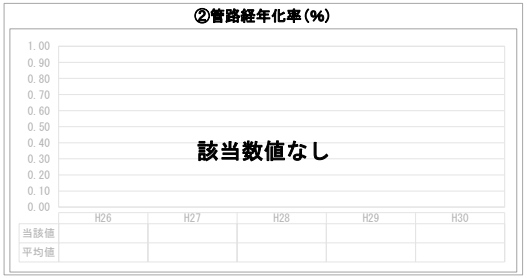
2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

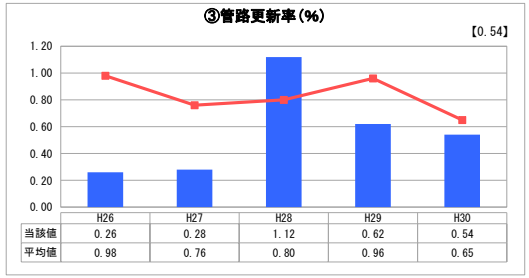
②管路経年化率(%)



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値					
平均値					

③管路更新率(%)

【0.54】



	H26	H27	H28	H29	H30
当該値	0.26	0.28	1.12	0.62	0.54
平均値	0.98	0.76	0.80	0.96	0.65

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営状況は、収益的収支比率並びに料金回収率は全国平均を下回っており、一般会計からの繰入金に依存している状況にある。

このような状況となった要因は、施設の更新による施設投資の増加、過疎地域という地域性による事業効率の低下があるとともに、料金設定が給水原価を大きく下回っていることに要因があると考えられる。

このことから、今後は施設投資の抑制等による経費削減を図るとともに、適切な料金設定が必要と考えられる。

①収益的収支比率が大きく減少しているが、これは地方債償還元金が増加した影響である。今後は施設統合事業で起債した償還元金がR4年にピークを迎える見込みである。

⑧有収率は前年度とあまり変化していないが、これまで計画的に実施している老朽管更新工事の成果と考えられる。しかし、有収率自体はまだ低めであるため、今後も引き続き計画的な老朽管更新が必要である。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化は、近年実施した施設の統廃合による更新により、当分の間は問題ないと判断しているが、将来的には懸念されることであるため、計画的に更新が図れるよう施設の維持管理に努める必要があると考えている。

③管路更新率が前年度と比べあまり変化していない。今後も引き続き計画的な老朽管更新を進めていく必要がある。

なお、H29は集中的に老朽管更新を実施したため更新率が高くなっている。

全体総括

施設の老朽化は、近年実施した施設の統廃合による更新により、当分の間は問題ないと判断しているが、将来的には懸念されることであるため、計画的に更新が図れるよう施設の維持管理に努める必要があると考えている。

このことから、R02.4から地方公営企業法の全てを適用し、上水道事業と経営統合する予定となっている。これにより経営の効率化、適切な料金の設定を図っていく必要があると考えている。